

谷汲巡礼街道

文 方山 直道



畿内近国の由緒ある観音様を参拝する西国三十三観音霊場巡礼が定着したのは室町時代中頃といわれています。第一番が熊野那智(和歌山県)の青岸渡寺で、有名な石山寺・三井寺や京都東山の清水寺が入り、最後の三十三番満願礼所が谷汲山華嚴寺です。中山道の赤坂宿から分かれて北上し、市橋・片山・八幡・池野・六之井・上田を通り、杉野の渡し船で揖斐川を越え(現在の三町大橋あたり)、島からさらに小野坂の峠を越して谷汲へ至る七里、約28kmの道を谷汲巡礼街道

といえます。

江戸時代も後期になると庶民も願を立てて巡礼の旅に出ました。しかし道や宿も整っておらず、中には行き倒れる人もいました。この街道筋には様々な巡礼者支援のならわしがあり、上八幡の青光庵(廃寺)と六之井の観音庵(保健センターの南、廃寺)には接待所(休憩所)があつて湯茶や杖・草鞋などを提供しました。また、八幡村の名主であつた竹中与惣治宅には寛延二(一七四九)年に

施行宿(無料宿泊所)が設けられて、巡礼者は米や野菜をもらつて自炊して泊まることができました。大垣藩への届けでは、年間米5石大根3千本まき千束などを要したとあり、旅人を助ける善行として褒美が与えられています。村人も力を合わせて支援しました。観音庵で記録した祠堂帳によると、関西を中心に遠

くは出羽や薩摩からも年間3千人を越える巡礼者が利用したとあります。

街道筋の要所には谷汲を示す道標が池田町内にも十数カ所あります。一つ一つ探しながら数キロの楽しいウォーキング、いかがですか？

(参考 八幡公民館『ふるさとやわた』)



▲観音庵跡の道標(東町)

編集 池田町観光ボランティアガイド協会